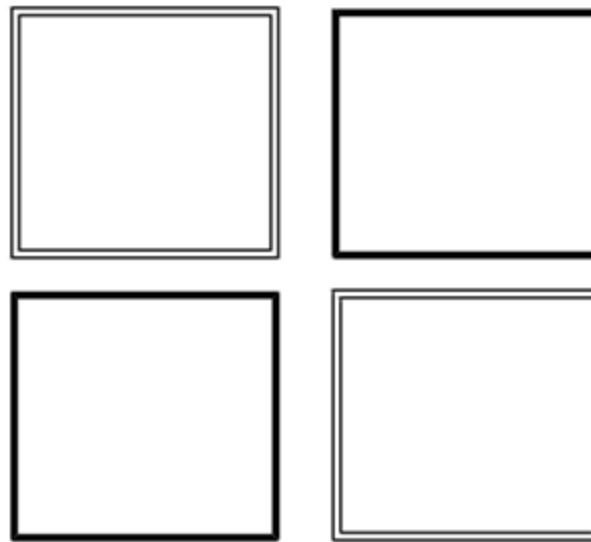


令和 7 年度年間指導計画 (1 年生用シラバス)



富山県立高岡工芸高等学校

■ 目 次 ■

国 語	1
地歴公民	3
数 学	4
理 科	6
保健体育	8
芸 術	1 0
外 国 語	1 1
家 庭	1 2

工業（機 械 科）	1 3
工業（電子機械科）	1 5
工業（電 気 科）	1 7
工業（建 築 科）	1 9
工業（土木環境科）	2 1
工業（工 芸 科）	2 3
工業（デザイン・絵画科）	2 5

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	国語	科目名	言語文化	教科書	新編言語文化	学年組	第1学年 11H～15H	単位数	2
年間目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	随想 生きる喜び さくらさくらさくら	・随想を読んで、筆者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。	定期考査の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的 に評価する。	中 間
5	古文入門 古文の世界へ 古文に親しむ 古文学習のしるべ1 古文の言葉と仮名遣い	・古文の代表作品の冒頭を音読し、それぞれの文章のリズムや調子の違いを感じ取る。 ・古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎となる文語のきまりを理解する。		
6	小説1 触れ合う心 とんかつ	・登場人物の境遇や性格を的確に把握し、会話や行動の描写に着目して人物の心情の変化を読み取る。	定期考査の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的 に評価する。	期 末
7	古文入門 古文の世界へ 児のそら寝	・説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。		
1 学期授業週数		1 2		

2学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい（内容）	評価方法	考查範囲
9	小説2 葛藤する心 羅生門 ○言語活動 元になった古典作品と読み比べよう	・極限状態にある登場人物の心理の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 ・古典を元にして作られた作品と、元の作品を読み比べ、理解を深める。	定期考査の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的 に評価する。	中 間
10	漢文入門 漢文に親しむ 訓読の基本 訓読・格言	・漢文の特色を知り、訓読のきをまりを理解するとともに、格言に親しむ。		

11	漢文入門 漢文に親しむ 故事成語一三編 守株・五十歩百歩・借虎威	・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。	定期考査の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的 に評価する。	期 末
12	詩歌 命をうたう I was born	・詩歌に親しみ、深く読み味わう力を養う。 ・散文詩を読み、蜉蝣のイメージに託された生命への思いを深く味わう。		
2 学期授業週数		1 5		

3学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい（内容）	評価方法	考查範囲
1	小説3 現実の向こう側 デューク	・多様な小説を読んで、読書の幅を広げ、豊かな感性を養う。 ・主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。	定期考査の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的 に評価する。	学 年 末
2	随筆 日々の思い 徒然草 奥山に、猫またといふものありて	・古文の表現に慣れ、随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。		
3	詩歌 命をうたう 柳あをめる【短歌】	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。		
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科 科 名	国語	科目 名	言語文化	教科 書	新編言語文化	学年 組	第1学年 16H・17H	単 位 数	3
年間 目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	随想1 生きる喜び さくらさくらさくら ○言語活動 「花」といえば「桜」？	・随想を読んで、筆者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。 ・「桜」についてふだんのように感じているかまとめ、発表する。	定期考查の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的 に評価する。	中 間
5	古文入門 古文の世界へ 古文に親しむ 古文学習のしるべ1 古文の言葉と仮名遣い	・古文の代表作品の冒頭を音読し、それぞれの文章のリズムや調子の違いを感じ取る。 ・古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎となる文語のきまりを理解する。		
6	小説1 触れ合う心 とんかつ 小説の読み方	・登場人物の境遇や性格を的確に把握し、会話や行動の描写に着目して人物の心情の変化を読み取る。	定期考查の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的 に評価する。	期 末
7	古文入門 古文の世界へ 兄のそら寝 古文学習のしるべ2 古語を調べるために	・説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。		
1 学期授業週数		1 2		

2学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	随想1 生きる喜び 「美しい」ということ ◇エッセイを書く	・筆者の経験と分析について理解し、「美しい」ということについて考える。 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を選び、感じたことや伝えたいことを表現する。	定期考查の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的 に評価する。	中 間
10	小説2 葛藤する心 羅生門 ○言語活動 元になった古典作品と読み比べよう 漢文入門 漢文に親しむ 訓読の基本 訓読・格言・再読文字	・極限状態にある登場人物の心理の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 ・古典を元にして作られた作品と、元の作品を読み比べ、理解を深める。 ・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。		

11	漢文入門 漢文に親しむ 故事成語一三編 守株・五十歩百歩・借虎威	・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。	定期考查の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的 に評価する。	期 末
12	詩歌 命をうたう I was born 詩歌 うたの心 折々のうた 古文学習のしるべ5 和歌 ○言語活動 短歌を作る	・詩歌に親しみ、深く読み味わう力を養う。 ・散文詩を読み、蜉蝣のイメージに託された生命への思いを深く味わう。 ・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・自分の感じたことや伝えたいことなどを、古典的技法に倣って短歌にし、効果的に書く。		
2 学期授業週数		1 5		

3学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	小説3 現実の向こう側 デューク	・多様な小説を読んで、読書の幅を広げ、豊かな感性を養う。 ・主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。	定期考查の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的 に評価する。	学 年 末
2	随筆 日々の思い 徒然草 奥山に、猫またといふものありて 古文学習のしるべ3 用言の活用 物語 古人の生き方 伊勢物語 芥川 古文学習のしるべ4 助動詞・助詞	・古文の表現に慣れ、随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 ・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。		
3	詩歌 命をうたう 柳あをめる【短歌】	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。		
3学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	公民	科目名	公共	教科書	公共数研出版	学年組	11H～17H	単位数	2
年間目標	・広い視野で現代社会の問題や現状を深く理解する。 ・良識ある公民として、身近な問題からグローバルな問題に至るまでを主体的に考察し、公正に判断する力を養う。 ・一人の国民として自覚をもち、社会の活動を理解して、今後の日常生活のなかで主体的に行動する。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
4	第 1 章 公共的な空間を 作る私たち	・「公共」を学ぶ意義や学習の目標を理解する。 ・青年期の本質的意味を理解し、成人への移行、自我の確立 と自己形成を把握する。	授業への取組み 方、提出物及び考 査の結果を総合 的に判断する。	中 間
5	第 2 章 公共的な空間に おける人間としての あり方生き方	・近代科学の考え方や人間の尊厳、現代の地球環境問題につ いて討論を通じて理解する。		
6	第 3 章 公共的な空間におけ る基本原理	・民主社会の基本原理について話し合う。 ・日本国憲法と基本原理について理解する。	授業への取組み 方、提出物及び考 査の結果を総合 的に判断する。	期 末
7				
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい（内容）	評価方法	考查範囲
9	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義	・国会・内閣・裁判所の仕組みと役割について理解する。 (模擬民事裁判の実践)	授業への取り組み方、 提出物及び 考查の結果を総合的に判断する。	中間
10		・政治参加と選挙制度の役割について討論する。 (高校生はどこまで政治に関われるのか、正しく理解する)		

11	第5章 現代の経済社会と 経済活動のあり方	・市場経済の仕組みについて理解する。	授業への取組み方、 提出物及び考査の結 果を総合的に判断す る。	期 末
12		・国民所得と経済成長について統計データを用いて解明する。 ・日本経済の発展を時系列に沿って理解する。 ・産業構造は変化をしながら、時代のニーズに合わせた形態をとり、日本経済が回復していったことを理解する。 ・消費者問題や公害対策、労働者の権利と現代の労働問題について、討論を通じて考察を深める。		
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい（内容）	評価方法	考查範囲
1	第6章 国際社会の動向と日本の役割	・国際政治の動向について、理解する。 ・日本の安全保障と軍縮の動きをめぐり話し合い、考察する。 ・経済のグローバル化と SDGs の関連性について理解を深める。	授業への取り組み方、 提出物及び 考查の結果を総合的に判断する。	学年末
2				
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技能	・現代における社会の課題を改善するための判断基準となる知識をしっかりと理解している。 また身近な生活の中から、自分に置き換えて生活しようと試みている。 ・自らの考えに疑問を投げかけ、資料集に留まらず、図書館に赴いて書籍資料を探索たりインターネットも活用して情報収集をして、知識を高めている。
思考・判断・表現	・現在に至るまでの歴史を振り返り、日本の視点から社会問題をみずから引き起こしてきたのかなど、問題の根本的解決に向けて自分なりに考察し、意見を表明しようとしている。 ・出来事に対して置かれている立場を理解した上で、自分には何ができるのかを考察し、積極的に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・公共の学習に関心をもって取り組み、自ら調べて理解しようと努力している。 ・発問に対して、意欲的な姿勢を見せている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）

[illegible]

1 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
4	第1章 数と式 第1節 式の計算	式を目的に応じて変形したり、見通しをもって扱ったりすることができるようにする。 式の展開では2次までの公式を扱う。 因数分解では、2次式の「たすきがけの因数分解」の理解を完全にする。	定期考査の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで評価する。	中
5	第2節 実数	有理数、無理数、分母の有理化などの高校で初出の用語の定着を図る。絶対値の記号の扱いに慣れること。式を目的に応じて変形したり、見通しをもって扱ったりすることができるようにする。		間
6	第3節 1次不等式	不等式では事柄を不等式で表すこと、解の意味などの基本的な内容を理解すること。	定期考査の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで評価する。	期
7	第2章 集合と命題	集合の概念や和集合、共通部分、部分集合、補集合などの集合に関する基本的な事柄を理解する。 命題と条件の概念を学び、命題と集合の関係や命題とその逆、対偶などの真偽を求める。証明に対偶を利用する場合と、背理法を利用する場合を考え、問題にあった証明法を見つける。		末
1学期授業週数		12		

2 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
9	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	2次式の平方完成を導入し、2次関数のグラフを書くための式変形を定着させる。2次関数の値の変化をグラフで調べることにより、最大・最小を求める。 2次関数の決定に関連して、連立3元1次方程式を解けるようにする。 2次関数のグラフとx軸の共有点のx座標が2次方程式の解である。	定期考査の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで評価する。	中
10	第2節 2次方程式と2次不等式	また、2次関数のグラフとx軸の位置関係を利用して2次不等式を解く。		間

11	第4章 図形と計量	直角三角形の辺と角の関係を用いて、鋭角の正弦、余弦、正接の意味を理解する。 座標を用い、鈍角にまで角を拡張して、三角比を定義する。 正弦定理、余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや、角の大きさ、面積などが求まることを学ぶ。	定期考査の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで評価する。	期 <
----	-----------	--	--	--

3 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)			評 価 方 法	考査 範囲
1	第5章 データの分析	自然現象や実社会には、互いに関連すると考えられる数量がたくさんある。 それらの数量の関係を、表や、図に表すことにより将来の予測に役立てることができる。 2つの変量の間に一方が増加すれば、他方が増加する傾向にあるとき正の相関がある、一方が増加すれば、他方が減少する傾向にあるとき負の相関があることを理解させる。			定期考査の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで評価する。	学 年 末
2						
3						
3学期授業週数		8	年間授業週数	35		

◎評価の観点及び内容

知能・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり、目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決し、解決の過程や結果を批判的に考察し判断することができる。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善することができる。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	数学	科目名	数学 I	教科書	最新 数学 I	学年組	1 年 6～7 組	単位数	2
年間目標	数と式、集合と命題及び2次関数について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	第1章 数と式	式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字に置き換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。	定期考查の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで評価する。	中 間
5	第1節 数と式 1. 多項式 2. 多項式の加法・減法・乗法 3. 展開の公式 4. 式の展開の工夫 5. 因数分解			
6	6. いろいろな因数分解			
7	第2節 実数 7. 実数 8. 根号を含む式の計算			
7	第3節 1次不等式 9. 不等式 10. 不等式の性質 11. 1次不等式の解き方 12. 連立不等式 13. 不等式の利用			
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	第2章 集合と命題 1. 集合と部分集合 2. 共通部分、和集合、補集合 3. 命題と集合 4. 命題と証明	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	定期考查の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで評価する。	中 間
10				

11	第3章 2次関数	2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、 2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの 情報機器を用いてグラフを描くなどして多面的に考察する。 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次 関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。	定期考查の成績、 小テスト、プリント、 授業ノート、宿題 ノートなどの提出 物の内容、学習に対 する意欲や授業 態度などで評価する。	期 末
	第1節 2次関数とグラフ 1. 関数 2. 関数とグラフ 3. $y=ax^2$ のグラフ 4. $y=ax^2+q$ のグラフ 5. $y=a(x-a)^2$ のグラフ 6. $y=a(x-a)^2+q$ のグラフ 7. $y=ax^2+bx+c$ のグラフ 8. 2次関数の最大・最小 9. 2次関数の決定			
12				
2学期授業週数		15		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	第2節 2次方程式と2次不等式 10. 2次方程式 11. 2次関数とグラフとx軸の共有点 12. 2次不等式 13. 2次不等式の利用	2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	定期考查の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで評価する。	学 年 末
2				
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技能	数と式、集合と命題及び2次関数について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断することができる。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善することができる。

令和 7 年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	理科	科目名	物理基礎	教科書	高等学校新物理基礎 （第一学習社）	学年組	11～15H	単位数	2
年間目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。								

1 学期					
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲	
4	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動	・直線運動における変位、速度、加速度などの運動の表し方を理解する。 ・相対速度や速度の合成の学習を通して、速度がベクトル量であることを理解する。 ・等加速度運動における「時間と変位」「時間と速度」の関係を理解する。 ・空気抵抗がなければ、質量や体積によらず、一様に自由落下運動をすることを理解する。 ・自由落下運動や鉛直投げ下ろし運動、鉛直投げ上げ運動の「時間」「速度」「変位」の関係式を理解する。 ・水平投射運動や斜方投射運動について定性的に理解する。	授業への取り組み方、提出物及び調査の結果を総合的に判断する。	中 間	
5					
6	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則	・力とは何かを理解する。 ・重さと質量の違いを理解する。 ・固体には弾性があり、一般にはフックの法則に従うことを理解する。 ・力の合成、分解、つりあいなど、力の性質を理解する。 ・作用反作用の法則を理解する。 ・摩擦力、抵抗力、浮力などのさまざまな力について理解する。 ・慣性の法則を理解する。 ・力と加速度の関係を理解し、運動の法則を理解する。 ・運動方程式を立てて、物体の運動のようすを調べる。	授業への取り組み方、提出物及び調査の結果を総合的に判断する。	期 末	
7					
1 学期授業週数		1 2			

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
9	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第3節 仕事と力学的エネルギー	・エネルギーと仕事の基礎概念を理解する。 ・仕事と仕事率について理解する。 ・運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し、一定の条件の下で力学的エネルギーが保存することを理解する。	授業への取り組み方、提出物及び考查の結果を総合的に判断する。	中 間
10	第Ⅱ章 熱 第1節 熱とエネルギー	・巨視的に見た熱の正体、微視的に見た熱の正体を理解する。 ・物質の三態や温度について理解する。 ・熱容量や比熱について理解する。 ・熱力学第一法則について理解する。 ・熱機関について理解する。 ・不可逆現象について理解する。		

11	第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質	・波とは、媒質の振動が次々と時間をかけて伝わっていく現象であることを理解する。 ・波の速さの式 $v = f\lambda$ を理解する。 ・波には横波と縦波があることを理解する。 ・波の反射について理解する。 ・音の伝わり方は、波の性質を示すことを理解する。 ・定常波の知識から、発音体の振動を理解させ、そこから発せられる音との関係を考えられる。	授業への取組み方、提出物及び調査の結果を総合的に判断する。	期 末
12	第Ⅲ章 波動 第2節 音波 第Ⅳ章 電気 第1節 電荷と電流	・波の重ねあわせから、うなりについて理解する。 ・気柱の共鳴や共振について理解する。 ・静電気について、理解する。 ・電流と電気量について理解する。 ・オームの法則や電気抵抗の直列接続、並列接続について理解する。 ・金属の抵抗率について理解する。 ・半導体の基本的な性質について理解する。 ・半導体はさまざまな機器で利用されていることを理解する。 ・電力・電力量やジュールの法則について理解する。		
2学期授業週数		15		

3 学期							
月	学 習 項 目 (単 元 名)		学習のねらい (内容)			評 価 方 法	考查 範囲
1	第IV章 電気 第2節 電流と磁場		・電磁誘導について理解する。 ・直流と交流の違いを理解する。 ・送電と変圧について理解する。 ・家庭での交流の利用に関連し、実効値について理解する。 ・電波の性質について理解する。 ・エネルギーの変換やエネルギー保存の法則について理解する。 ・物質の基本的な構成単位として、元素や原子核について理解する。 ・放射能・放射線について理解する。このとき、放射能・放射線の単位や放射線の利用法、その安全性についても理解する。			授業への取組み方、提出物及び考查の結果を総合的に判断する。	学 年 末
2	第IV章 電気 第3節 エネルギーとその利用						
3							
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）

[illegible]

1 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
4	序編 科学技術の発展 1. 灯りの歴史 2. 通信の歴史 3. 交通の歴史 4. コンピュータの歴史 5. 農業の歴史	・現代の科学技術文明が科学によって支えられ、発展してきたことを理解する。 ・科学技術によって地球環境に影響を及ぼすことがあることを理解し、科学には課題があり、研究が進められていることに気づく。	授業への取組み方、提出物及び考查の結果を総合的に判断する。	中 間
5	6. 食品の歴史 7. 医療の歴史 8. 防災の歴史 9. エネルギーの歴史			
6	1編 物質の科学 1章 材料とその再利用 1. 金属と人間生活 2. 身の回りの金属と精錬 3. 金属のさびとその防止 4. プラスチックとその性質 5. プラスチックの成り立ち 6. 様々なプラスチック 7. 資源の再利用	・身の回りの天然の物質や人工の物質がどのような成り立ちでできているか確認する。 ・原子の構造、化学結合について理解し、それらが物質の性質と関係していることに気付く。 ・金属の性質や特徴、用途について理解する。 ・プラスチックの性質や特徴、用途について理解する。 ・金属、プラスチック、セラミックの製造には多量の原料やエネルギーが必要であることを理解する。		
7				
1 学期授業週数		1 2		

2 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
9	2編 生命の科学 1章 ヒトの生命現象 1. 遺伝情報とDNA 2. 生命活動を支えるたんぱく質 3. 血統濃度とホルモン 4. 血統濃度の調節と健康 5. 免疫とからだの防御 6. 免疫と健康	・ヒトの眼の構造や仕組み、はたらきを理解する。 ・ヒトの体内環境の調節について理解する。 ・免疫機能の仕組みについて理解する。 ・DNAの構造について理解し、転写、翻訳によってタンパク質が合成され生命現象を支えていることを理解する。 ・光の反射、屈折、全反射などの現象の観察を通して、その原理について理解を深める。	授業への取り組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	中 間
10	7. 眼の構造とはたらき 8. 光の情報と生命活動			

11	3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用 1. 光の色 2. 光の直進と反射 3. 光の屈折と全反射 4. 光の分散と散乱 5. 光の解析と干渉	・光の波長とスペクトルについて理解し、物体の色がどのようにして生じているかについて、光の3原色や人の視覚と関連付けて考えるととも、色を感じる仕組みについて理解する。 ・光の回折、干渉という波特有の性質や光の偏光について理解し、その応用について考える。 ・電磁波の利用や、光に関する技術の進歩について理解する。	授業への取り組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	期 <
----	--	--	--------------------------------	--

3 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	査 考 範 囲	
1	4 編 宇宙や地球の科学 2 章 自然景観と自然災害 1. 日本列島とプレート 2. 地震のしくみと地震活動	・プレートテクトニクスについて理解を深め、そのはたらきによってつくられる様々な地形について理解を深める。 ・地震や噴火の発生するメカニズムについて理解し、断層運動や火山活動によってつくられる様々な地形について考える。	授業への取組み方、提出物及び査考の結果を総合的に判断する。	学 年 末	
2	3. 地震による災害 4. マグマがつくる火山と景観 5. 火山がもたらす恵みと災害 6. 水のはたらきと自然景観	・東日本大震災を題材として、地震や津波のようすを理解するとともに、被害を減らすための対策について自ら考える。 ・災害から命や社会を守るための対策について自ら考える。			
3	7. 土砂災害と洪水				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5	

◎評価の観点及び内容

知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ 2025	学年組	1年全	単位数	2
年間目標	(1)各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2)各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 (3)運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
4	体づくり運動 体育理論 集団行動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を中心に行う。 体力を高める運動を行い、体力の向上を目指す。また、自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を身に付ける。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能 35%程度	
5	陸上競技 スポーツテスト	走跳投の理想的な技術を理解し、実践を通して個人の記録向上を目指す。 球技では、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をしたりすることの楽しさや喜びを体験する。	2 思考・判断・表現 35%程度	
6	バレーボール 柔道 剣道 より 1 種目選択	武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行う。	3 主体的に学習に取り組む態度 30%程度	
7				
1 学期授業週数		1 2		

2学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
9	体づくり運動 体育理論	球技では、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をしたりすることの楽しさや喜びを体験する。	学期全体の評価は、次の配分で行う。	
10	サッカー バスケットボール	武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行う。	1 知識・技能 35%程度	
11	バレーボール (ビーチボール)	ダンスでは、リズムに乗って体を動かすことの楽しさを体験するとともに、自他の良さを認め合うことの大切さに気付く。	2 思考・判断・表現 35%程度	
12	ソフトボール	表現したいテーマにふさわしいイメージを捉え、仲間と協力して即興的に表現できるようにする。	3 主体的に学習に取り組む 態度 30%程度	
	柔道 剣道 ダンス より2種目選択			
2学期授業週数		15		

3学期					
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)		評 価 方 法	考査 範囲
1	体づくり運動 体育理論	球技では、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をしたりすることの楽しさや喜びを体験する。 武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行う。		学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能 35%程度 2 思考・判断・表現 35%程度 3 主体的に学習に取り組む態度 30%程度	
2	バスケットボール 柔道 剣道 より1種目選択				
3					
3学期授業週数		8	年間授業週数	35	

◎評価の観点及び内容

知 識 ・ 技 能	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動を合理的に行っている。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
主体的に学習に取り組む 態度	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができる。また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする中で、公正、協力、責任などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動を行おうとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	保健体育	科目名	保健	教科書	現代高等保健体育	学年組	1年全	単位数	1
年間目標	個人の生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自ら健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
4 5 6 7	1 オリエンテーション 2 健康の考え方と成り立ち 3 私たちの健康のすがた 4 生活習慣病の予防と回復 5 がんの原因と予防 6 がんの治療と回復 7 運動と健康 8 食事と健康 9 休養・睡眠と健康	健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の予防について、科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付ける。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能 35%程度 2 思考・判断・表現 35%程度 3 主体的に学習に取り組む態度 30%程度	期 末
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
9 10 11 12	10 喫煙と健康 11 飲酒と健康 12 薬物乱用と健康 13 精神疾患の特徴 14 精神疾患の予防 15 精神疾患からの回復 16 現代の感染症 17 感染症の予防 18 性感染症・エイズとその予防 19 健康に関する意志決定・行動選択 20 健康に関する環境づくり	健康の保持増進のために必要な生活行動や疾病の予防と、身体と精神は互いに密接な関係にあることを科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付ける。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能 35%程度 2 思考・判断・表現 35%程度 3 主体的に学習に取り組む態度 30%程度	期 末
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
1 2 3	21 事故の現状と発生要因 22 安全な社会の形成 23 交通における安全 24 応急手当の意義とその基本 25 日常的な応急手当 26 心配蘇生法 27 まとめ	自然災害及び交通事故などによる傷害の発生要因やその防止対策、応急手当の意義や手順について、課題解決を通して科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付ける。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能 35%程度 2 思考・判断・表現 35%程度 3 主体的に学習に取り組む態度 30%程度	学 年 末
3 学期授業週数		8	年 間	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技能	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
思 考 ・ 判 断・表 現	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。
主体的に学習に取り組む態度	自他の心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。

令和7年度年間指導計画（シラバス）

[illegible]

1 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範囲
4	○オリエンテーション	美術を通して学ぶことを確認する。教科書等を使い、これからの美術の学習内容に関心をもち、目的意識を明確にし、学習の意義や内容、評価等について理解する。	学習プリント、鑑賞レポート、制作物等の提出物の内容や制作過程、授業への取り組み等を総合的に評価する。	
5	○鉛筆デッサン	鉛筆を使った基本的な絵の描き方を学ぶ。 身近なものを描く。		
	○色彩の基礎	ポスターカラー・アクリル絵の具の使い方を知る。		
6	○美術史 I	古代から中世にかけての美術、及びルネサンス期の美術。	学習プリント、鑑賞レポート、制作物等の提出物の内容や制作過程、授業への取り組み等を総合的に評価する。	
7	鑑賞①「自画像」 ○自画像の制作 アクリル絵の具等による人物画の制作	様々な自画像を鑑賞し、表現の多様性を知る。 自分の特徴等を、意図や主題を踏まえて表現する。人の顔の基本的な形の捉え方や、明暗による立体の表現法を理解する。 表現方法を工夫する。		
1学期授業週数		12		

2 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
9	○自画像の制作 アクリル絵の具等による人物画の制作	自分の特徴等を、意図や主題を踏まえて表現する。人の顔の基本的な形の捉え方や、明暗による立体の表現法を理解する。 表現方法を工夫する。	学習プリント、鑑賞レポート、制作物等の提出物の内容や制作過程、授業への取り組み等を総合的に評価する。	
10	○相互鑑賞②	完成した互いの作品を鑑賞し、よいところを見付ける。 制作を振り返り、作品の記録や感想等をまとめる。		

11	○美術史Ⅱ	ルネサンス以降の美術表現の展開 芸術家の生涯や作品について理解を深める。	学習プリント、鑑賞レポート、制作物等の提出物の内容や制作過程、授業への取り組み、定期考査の結果等を総合的に評価する。	期末
12	鑑賞③「空間をデザインする・パブリックアート」	公共の場における美術作品について知る。 デザインの役割について考える。		
	鑑賞④「デザインの現場」	デザインの種類と役割について知り、デザイナーの仕事について考える。		
	○オリジナルのロゴマークの制作	チームごとに着想から構成を考え、ロゴマークを制作する。丁寧さを意識して着色を施す。 発想法やグループワークについて考える。		
2学期授業週数		15		

3 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲	
1	鑑賞⑤「立体表現」	立体作品の表現の特徴や素材の違いについて知る。	学習プリント、鑑賞レポート、制作物等の提出物の内容や制作過程、プレゼンテーション、授業への取り組み等を総合的に評価する。		
2	○美術史Ⅲ 美術史まとめ	印象派以降、現代美術に至るまで。 一年間の活動や座学を通して学んだ美術の歴史や、デザインの知識について理解を深める。			
3	鑑賞⑥「アニメーション」	アニメーション技法を使った表現方法について知る。			
3学期授業週数		8	年間授業週数	35	

◎評価の観点及び内容

知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）

[illegible]

1 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
4	オリエンテーション Lesson 1 Why Do You Study English? Lesson 2 When Do You Feel Happy?	・授業の進め方についてのオリエンテーションを受ける。 ・Classroom English を練習する。 ・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容 (海外旅行サイトの掲示板の投稿者が日本で体験したこと) について、学習した語彙や言語材料 (文法事項 過去形) を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。 ・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容 (ダイキが熱中していること／ダンス) について、学習した語彙や言語材料 (文法事項 進行形) を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	授業への取組み方、プレゼンテーション、小テスト及び考査の結果を総合的に判断する。	中 間
6	Lesson 3 Onigiri Goes Overseas	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容 (おにぎりの海外での人気) について、学習した語彙や言語材料 (文法事項 助動詞) を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	授業への取組み方、プレゼンテーション、小テスト及び考査の結果を総合的に判断する。	期
7	Lesson 4 Pictograms	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容 (ピクトグラム) について、学習した語彙や言語材料 (文法事項 不定詞) を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。		末
1 学期授業週数		1 2		

2 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
9	Lesson 5 Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler	- 各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 - 本文の内容（ファシリティドッグのハンドラー森田優子さん）について、学習した語彙や言語材料（文法事項 動名詞）を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	授業への取組み方、プレゼンテーション、小テスト及び考查の結果を総合的に判断する。	中 間
10	Lesson 6 Convenience Stores: Keys to Their Success	- 各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 - 本文の内容（コンビニエンスストアの成功のかぎ）について、学習した語彙や言語材料（文法事項 that 節）を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。		

11	Lesson 7 High School Aquarium	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容（高校の水族館部の活動）について、学習した語彙や言語材料（文法事項 現在完了）を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	授業への取り組み方、プレゼンテーション、小テスト及び考查の結果を総合的に判断する。	期 末
12	Lesson8 Smart Farming	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容（スマート農業）について、学習した語彙や言語材料（文法事項 受け身）を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。		
2 学期授業週数		1 5		

3 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲	
1	Lesson 9 Food Waste	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容（食品廃棄の問題）について、学習した語彙や言語材料（文法事項 比較）を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	授業への取り組み方、プレゼンテーション、小テスト及び調査の結果を総合的に判断する。	学 年 末	
2	Lesson10 William and His Windmill	・各 Part の本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。 ・本文の内容（独学で発電の風車を作ったウィリアム・カムクワンバ）について、学習した語彙や言語材料（文法事項 関係代名詞）を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。			
3					
3学期授業週数		8	年間授業週数	35	

◎評価の観点及び内容

知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	家庭	科目名	家庭基礎	教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる	学年組	第1学年 11～17H	単位数	2
年間目標	1. 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 2. 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 3. 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。								

1学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
4	○家庭科の学び方	・家庭科で何を学びどう学習活動をしていくのかを知る。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解する。	学習に対する 意欲や授業態 度、授業ノート 等の提出物の 内容などで総 合的に評価す る。	中 間
5	1章 これからの生き方と家族 第1節 生涯の生活設計	・将来の職業選択について考察し、生活設計を工夫する。 ・有償労働・無償労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える。		
	第2節 家族・家庭と社会との かわり	・固定的な性別役割分業意識を見直し、男女が相互に協力して家庭を築き、家 族関係をつくる必要性を学ぶ。		
	2章 次世代をはぐくむ 第1節 子どもの発達	・家族・家庭に関する基礎的な法律や社会の制度を学習し、現代の家族・家庭の 理解を深める。 ・胎児の環境や母体の安全管理の重要性と生命の尊さを知る。		
6	第2節 子どもの生活 第3節 子育て支援と福祉	・乳幼児の身体の発育や運動機能の発達の概要を理解する。 ・子どもの発達に応じて基本的生活習慣や社会的生活習慣を身に付けさせる重 要性を理解する。		
7	3章 充実した生涯へ	・心身の発達を促す遊びの必要性を知る。 ・子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。		
	4章 とともに生きる	・長くなった生涯を見通して、高齢期を捉えることができる。 ・高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解し、自立を援助する ことについて考える。		
7	○家庭科の学びを広げよう ・ホームプロジェクト（HP） ・学校家庭クラブ活動	・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える社会保障制度と課題を考 える。 ・ノーマライゼーションの実現のためにどのような取り組みが必要か考える。 ・HPと学校家庭クラブ活動の意義と実践方法を理解する。		
1学期授業週数		12		

2学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	・ホームプロジェクト発表	・HPの取り組みについて理解を深める。	学習に対する意 欲や授業態度、授 業ノート等の提 出物の内容など で総合的に評価 する。	中 間
10	6章 衣生活をつくる 第1節 人の一生と被服	・被服のもつ保健衛生的機能や社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考える。		
	第2節 被服材料と管理	・被服材料の特徴を理解し、組成表示・取扱絵表示・サイズ表示などの見方について理解する。		
	第3節 これからの衣生活	・織物と編物の違いを知り、各々の組織について理解する。 ・汚れ落ちの仕組みと被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ・衣服の消費のあり方を見直し、環境に負荷を与えない行動を考え、実践する。 ・日常の食生活を振り返り、食事の役割を認識する。		
	5章 食生活をつくる 第1節 人の一生と食事	・健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。 ・PFC比率に着目し、日本は脂質の取り過ぎの傾向にあることを知る。		

11	第2節 栄養と食品	・環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。 ・栄養素の種類と働き、それらを含む食品について理解する。 ・調理加工食品や調味料・香辛料などの種類と働きを知る。 ・健康増進のための食品について基本的な理解を図る。 ・食品表示を通して各食品の選択法や保存法を身に付ける。 ・食中毒の種類を知り、食品の取扱い、手の清潔、台所や調理器具の衛生などの面での注意事項について学ぶ。 ・食品添加物の用途を理解し、食品の購入法を身に付ける。 ・健康の維持・増進、身体の成長のために必要な食事摂取基準を理解する。 ・ライフステージに合わせて栄養・嗜好・味わい・予算・調理時間などを考えて献立作成ができるようにする。 ・食品の選択・計量、器具の扱い、及び包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。 ・日本料理・西洋料理・中国料理の盛り付けと配膳ができ、それぞれのマナーを心得て食事ができるようにする。 ・個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解する。 ・家庭の収入と支出を通して家計の構造を理解する。	学習に対する意欲や授業態度、授業ノート等の提出物の内容、定期考査の成績などで総合的に評価する。	期 末
	第3節 食生活の安全のために			
	第4節 食生活をデザインする			
	○調理実習			
	8章 経済生活をつくる			
第1節 私たちの暮らしと経済				
12				
2学期授業週数		15		

3学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	第2節 消費者問題を考える	・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動を取ろうとする態度を養う。	学習に対する意 欲や授業態度、授 業ノート等の提 出物の内容、定期 考査の成績など で総合的に評価 する。	学 年 末
	第3節 持続可能な社会をめざして	・持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。		
	7章 住生活をつくる 第1節 人の一生と住まい	・住まいは、異なる地域の気候や風土に応じてつくられたことを理解する。 ・家族の生活行為と住空間との関わり、生活行為や動作に必要な広さ、動線などについて理解する。		
3	第2節 住生活の計画と選択	・日照・採光・通風・温度・湿度・遮音などの住環境が、健康な生活に大きな影響を与えることを理解する。 ・住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。		
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画するとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	ものづくり学 工業技術基礎	教科書	工業技術基礎	学年組	1 1 H	単位数	1 2
年間目標	1 工業に関する基礎的な技術を実験や実習によって体験する。 2 1の体験に基づき各分野における工業技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解するとともに、広い視野と倫理観を養い、工業の発展をはかる意欲的な態度を身に付ける。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	① 計測 ・ノギスの理論と使い方 ・マイクロメータの理論と使い方 ・材料試験	・各種の測定器の名称と構造を理解し、的確な寸法測定ができる。 ・基本的な工具の使用方法を習得するとともに工具名や特徴等を学習する。 ・材料の試験方法を学習し、靱性（粘り強さ）などを測定することによって材料の機械的性質を理解する。	提出物の内 容、学習活動へ の取組み、態度 によって総合 評価する。	
5	② レーザー加工	・レーザの概要を理解し、非接触加工を体験する。 先端技術に関する知識を深める。 ・けがきの仕方を習得する。		
6	③ ねじ立て ・けがき作業 ・穴あけ作業 ・ねじ切り作業	・ドリルを用いた穴あけ作業を習得し、卓上ボール盤の各部の名称、基本的な穴あけ作業の手順を理解する。 ・軸にダイスでおねじを切る作業と穴にタップでめねじを切る作業を理解し、ねじ切りができる。		
7				
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	旋盤加工 ・作業における安全管理 ・バイトの取り付け ・送り機構の理解 ・清掃の仕方、保全管理	・旋盤加工機の基本的な操作を習得するとともに、作業における安全管理の知識を身に付ける。 ・的確な工具の取り付け方、切削理論等を習得する。 ・工作機械の保全の仕方を習得する。	提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	
10	鋳造（紙ばさみの製作） ・金属の融解と温度 ・鋳込みの速度調整 ・鋳造法	・鋳造法について理解し、砂型を製作できる。 ・アルミ合金の溶解を通して、金属材料の取扱いを習得し安全に鋳込み作業が行える。		

11	手仕上げ ・けがき作業 ・穴あけ作業 ・座ぐり作業 ・ねじ切り作業	・けがきの技術を習得し、正確な位置にけがき作業を行うことができる。 ・ドリルを用いた穴あけ作業を習得し、卓上ボール盤の各部の名称、基本的な穴あけ作業の手順を理解する。 ・軸にダイスでおねじを切る作業と穴にタップでめねじを切る作業を理解し、ねじ切りができる。	提出物の内容、 学習活動への取 組み、態度によっ て総合評価する。	
	12			
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	電気基礎 ・テスタの使い方 ・直流回路と交流回路 ・電子部品 ・半田付けの仕方	・測定レンジを切り換えて、テスタを利用できる。 ・直流回路と交流回路の基礎知識を身に付け、特徴を理解する。 ・電子部品の働きや使い方を学び、用途に応じて選定できる。 ・半田付けの基礎知識を身に付け、半田付けができる。	提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	
2				
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技術	・工業の各分野に関する基礎的な知識と技能を身に付け、工業の発展と環境・資源などとの調和のとれたものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して、広い視野から自ら思考し、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現し伝える能力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	・工業技術について主体的に興味・関心をもち、その改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身に付けている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	工業情報数理	教科書	工業情報数理	学年組	1 1 H	単位数	2
年間目標	1 データの表し方、論理回路、処理装置等について学習しコンピュータにおける情報の取扱いについて理解を深める。 2 流れ図、C言語によるプログラミングについて学習し、プログラムの処理手順、表現方法についての理解を深める。 3 工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	1 章 産業社会と情報技術	・コンピュータで扱う情報とその利用例などについて知る。	中間考査の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	中 間
5	6 章 ハードウェア 1 データの表し方	・2進数、10進数、16進数の相互変換や2進数の四則演算、補数計算を修得し、データ表現について理解する。		
6	2 論理回路の基礎	・基本論理回路の働きや特性について理解する。 ・コンピュータ内部の計算に関する回路を学び、論理回路の応用力を修得する。	期末考査の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	期 末
7	第7章 コンピュータネットワーク 1 コンピュータネットワークの概要 2 コンピュータネットワークの通信技術	・データ通信システムと情報通信ネットワークの概要について理解する。 ・コンピュータネットワークで使用するプロトコルについて理解する		
1 学期授業週数		12		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
9	3 章 プログラミングの基礎	・プログラム言語の役割と特性についてそれぞれ理解する。 ・コンピュータを利用し遂行する業務の目標や問題を明確に認識し、効率よく処理する力を養う。 ・業務処理手順を流れずに表現し、プログラム作成の基礎を修得する。	中間考査の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	中 間
10				

11	5 章 Cによる プログラミング 1 Cの特徴 2 四則演算のプログラ ム 3 選択処理 4 繰り返し処理 5 配列 6 関数	・プリプロセッサ機能等、C言語の特徴について理解する。 ・算術計算のプログラムにおけるプログラムの書式やデータ型、演算子などについて理解する。 ・選択、繰り返し処理について説明し、実際にプログラムが作成できるようになる。 ・配列による効果的なプログラム作成について理解する。 ・標準関数や引数や戻り値、変数の記憶域等について理解する。	期末考査の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	期 末
12	第10章 数理処理 3 モデル化とシミュレーション	・いろいろな事象が、モデル化によって数式として扱えることを理解する。		
2 学期授業週数		15		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
1	2 章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 2 ソフトウェアの基礎 3 アプリケーションソフトウェア	・オペレーティングシステムやワープロ等のアプリケーションソフトウェアの基本的な利用方法などについて理解する。	学年末考査の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	学 年 末
2	9 章 情報技術の活用	・収集した情報を基に、他人に分かりやすく効果的に考えを伝える方法を身に付ける。 ・問題を見だし、それを解決していく手順と方法を理解する。		
3	2 プレゼンテーション 4 問題の発見・解決			
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技術	・情報に関する基礎的な知識と技術をもち、社会における情報化の進展と情報の意義や役割、情報化社会に生きる技術者としての使命を理解し、活用できる。
思考・判断・表現	・諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に付けており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	・情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて自ら意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	ものづくり学 工業技術基礎	教科書	工業技術基礎	学年組	12H	単位数	1 2
年間目標	1 工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験する。 2 各分野における技術の興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解する。 3 工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
4	ものづくり学	・穴あけ、ねじ切りの基本作業を習得する。	授業に取り組む姿勢、レポートの内容、作品の成果などを総合的に評価する。	
	◎ねじ切り作業			
5	◎シーケンス制御	・接点やりレーの仕組みを習得する。 ・自己保持回路を理解する。		
6	◎レーザ	・判子の製作を通して、レーザ加工の基本作業を習得する。		
7	◎磁気実験	・磁界中の電流に働く電磁力を調べ、フレミングの左手の法則との関係を確認する。		
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	工業技術基礎 ◎マイコン制御 I	・ワンチップマイコン（P I C）の基礎的な構造を理解し、基本的な入出力制御の方法を習得する。	授業に取り組む姿勢、レポートの内容、作品の成果などを総合的に評価する。	
10	◎鋳造 鋳造基礎実習 ・生型FM法 ・アルミ溶解 紙ばさみの製作	・素材から鋳造品の製作を実際に行い、鋳造について理解する。 ・鋳造法の原理を理解し、優良な鋳型の製作をする。		

11	◎旋盤 ・切削理論と段取り ・旋盤の構造と基本操作 安全点検・工具	・旋盤の構造及び動作原理を理解する。 ・各種切削法を習得する。 ・切削条件に合わせて安全に作業ができる。	授業に取り組む姿勢、レポートの内容、作品の成果などを総合的に評価する。	
12				
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	◎ロボット制御 ・レゴブロックによる ロボット制御	・ロボット制御をするための原理・方法を理解する。 ・各種センサーの原理・役割を理解する。 ・ロボット制御をするためのプログラムを理解し、活用できるようにする。	授業に取り組む姿勢、レポートの内容、作品の成果などを総合的に評価する。	
2				
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技術	・工業の各分野に関する基礎的な知識を身に付け、工業の発展と環境との調和の取れた在り方や現代社会における工業の意義や役割を理解しているか。また、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理することができるか。
思考・判断・表現	・工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む態度	・工業に関する基礎的技術について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、社会の発展を図る創造的、実践的な態度を身に付けているか。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	工業情報数理	教科書	工業情報数理	学年組	1 2 H	単位数	2
年間目標	1 データの表し方、論理回路、処理装置等について学習しコンピュータにおける情報の取扱いについて理解を深める。 2 流れ図、C言語によるプログラミングについて学習し、プログラムの処理手順、表現方法についての理解を深める。 3 コンピュータの基本的な操作や活用の歴史、現代の利用等についての理解を深める。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	第1章 産業社会と情報技術	・ コンピュータで扱う情報とその利用例などについて知る。	中間 考査の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	中 間
5	第6章 ハードウェア 1 データの表し方	・ 2進数、10 進数、16 進数の相互変換や2進数の四則演算、補数計算を習得し、データ表現について理解する。		
6	2 論理回路の基礎 (1)基本論理回路 (2) 論理回路の応用	・ 基本論理回路の働きや特性について理解する。 ・ コンピュータ内部の計算に関する回路を学び、論理回路の応用力を習得する。		
7	第7章 コンピュータネットワーク 1 コンピュータネットワークの概要 2 コンピュータネットワークの通信技術	・データ通信システムと情報通信ネットワークの概要について理解する。 ・コンピュータネットワークで使用するプロトコルについて適切に活用できる。	期末 考査の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	期 末
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
9	第3章 プログラミングの基礎 2 プログラムの作り方 (1) プログラムの作成手順 (2) 問題の分析・検討 (3) 流れ図の作成	・プログラム言語の役割と特性についてそれぞれ理解する。 ・コンピュータを利用し遂行する業務の目標や問題を明確に認識し効率よく処理する力を養う。 ・業務処理手順を流れ図に表現しプログラム作成の基礎を習得する。	中間考查の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	中 間
10				

11	第5章 Cによるプログラミング 1 Cの特徴 2 四則演算のプログラム 5 選択処理 6 繰返し処理 7 配列 12 8 関数 第10章 数値処理 3 モデル化とシミュレーション	・プリプロセッサ機能等、C言語の特徴について理解する。 ・算術計算のプログラムにおけるプログラムの書式やデータ型、演算子などについて理解する。 ・選択処理、繰返し処理について説明し、実際にプログラムが作成できるようになる。 ・配列による効果的なプログラム作成について理解する。 ・標準関数や引数や戻り値、変数の記憶域等について理解する。 ・表計算ソフトウェアを用いた解析手順を行う技術を習得する。	期末考查の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	期 末
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
1	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 2 ソフトウェアの基礎 3 アプリケーションソフトウェア 2 第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 3 1 マルチメディア 2 プレゼンテーション	・オペレーティングシステムやワープロ等のアプリケーションソフトウェアの基本的な利用方法などについて理解する。 ・情報収集のための機器の操作に関する技術を習得する。 ・プレゼンテーションに必要な機器やソフトウェアの操作に関する技術を習得する。	学年末考查の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	学 年 末
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技術	情報技術に関する基礎的な知識をもち、社会における情報化の進展と情報の意義や役割、情報化社会に生きる技術者としての使命を理解しているか。 情報に関する基礎的な知識と技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に付けており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができるか。
主体的に学習に取り組む態度	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けているか。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	ものづくり学 工業技術基礎	教科書	自作テキスト 工業技術基礎	学年組	11H・13H・15H・17H 13H	単位数	1 2
年間目標	1 工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験する。 2 1の体験に基づいて各分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解するとともに、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 3 2について、電気科では特に論理回路、電気回路、電気工事の基礎の確立を目指すとともに、製作実習を通し、ものづくりの基礎的技術を体験する。								

1学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
4		・3班編成で、以下の3項目を1項目1週間で実施し、1週間ごとに実習項目を交代する。 ・土木環境科、デザイン絵画科、機械科の生徒が電気科で実習を行う。		
5	1 高圧実験	・商業電圧(100v)と高電圧の違いを知る。 絶縁破壊と火花放電、アーク放電、コロナ放電を体験する。		
6	2 配線実習	・電気の配線を正しく安全に行うことを学ぶ。 いろいろな配線を体験する。	・実習レポートの内容、実習への参加の仕方や態度などで評価する。	
7	3 プログラミング	・ArduinoとLEDを使って2進数や16進数の特徴を知る。 C言語を使った簡単なプログラミングを体験する。		
1学期授業週数		12		

2学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
9	1 交流波形の観測・直流安定化回路（コンバータ）	・交流波形をオシロスコープで観測することにより、交流と直流の違いを知る。 ・ダイオードを使って交流を直流に変える方法を学ぶ	・実習レポートの内容、実習への参加の仕方や態度などで評価する。	
	2 オームの法則	・電気回路には、オームの法則が成り立つことを学ぶ。		
10	3 基本論理回路	・ICを使用し論理回路を組み、論理回路の基礎について学ぶ。	・提出された課題の取組みの深さにより評価する。	

11	4 変圧器（トランス）の製作	・鉄心にコイルを巻いて変圧器を自作し、変圧器の仕組みについて学ぶ。		
	5 電気工事技能実習	・電気工事の基礎作業の習得を目指す。 ・配線工事の基礎・基本を身に付ける。 ・安全に電気工事を実施するための規則やルールを学ぶ。	・実習レポートの内容、実習への参加の仕方や態度などで評価する。	
12	6 直流電源の製作	・製作を通して、望ましい設計を行い、完成までの工程を体験し、加工の知識と技術を学習する。 ・直流電源のしくみを理解する。 ・各計器の使い方を習得し、回路の測定方法を身に付ける。	・提出された課題の取組みの深さにより評価する。	
	7 電位分布	・電位分布・電位差について学ぶ。		
2学期授業週数		15		

3学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
1	8 単相電力の測定	・交流では、電流と電圧の位相にずれがあることを知り、力率や電力の測定方法について学ぶ。	・実習レポートの内容、実習への参加の仕方や態度などで評価する。	
2	9 C言語とArduinoによるLED制御	・C言語によるプログラミングについて学ぶ。 ・マイコンを使って、SW入力やLED表示の方法を学ぶ。	・提出された課題の取組みの深さにより評価する。	
3				
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技術	工業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）

令和 7 年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	工業情報数理	教科書	工業情報数理	学年組	1 3 H	単位数	2
年間目標	1 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解する。 2 データの表し方、基本論理回路等について学習し、コンピュータにおける情報の取扱いについて理解を深める。 3 C によるプログラミングについて学習し、プログラムの処理手順、表現方法についての理解を深める。 4 情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。								

1 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
4	第1章 産業社会と情報技術 1 コンピュータの構成と特徴 2 情報化の進展と産業社会 3 情報化社会の権利とモラル	・コンピュータの基本構成と特徴について理解する。 ・コンピュータが身のまわりのさまざまなものに組み込まれ、さらにインターネットなどに接続され利用されていることについて理解する。 ・知的財産権、プライバシーの保護、ネチケットなど自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解する。	定期考査の成績、プリント等の提出物、学習活動への参加の仕方や態度などで評価する。	中
5	4 情報のセキュリティ管理	・コンピュータウイルス対策や情報の不正利用防止のための基本的な技術を理解する。		間
6	第7章 コンピュータネットワーク 1 ネットワークの概要 2 ネットワークの通信技術	・コンピュータネットワークの仕組みとそれを利用したデータ通信の利点について理解する。 ・コンピュータネットワークに必要な通信技術や技術的な約束事について理解する。	定期考査の成績、プリント等の提出物、学習活動への参加の仕方や態度などで評価する。	期
7	第6章 ハードウェア 1 データの表し方 2 論理回路の基礎 3 処理装置の構成と動作	・コンピュータで用いるデータの表し方について理解する。 ・2値で演算や制御を行う論理回路の基本について理解する。 ・コンピュータの構成、処理装置の動作について理解する。 ・入出力装置と補助記憶装置について理解する。		末
1学期授業週数		12		

2 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
9	第3章 プログラミングの基礎 1 プログラム言語 2 プログラムの作り方 3 流れ図とアルゴリズム	・種々のプログラム言語の役割と特性についてそれぞれ理解する。 ・コンピュータを利用し遂行する業務の目標や問題を明確に認識し効率よく処理する力を養う。 ・業務処理手順を流れ図に表現しプログラム作成の基礎を習得する。	定期考査の成績、プリント等の提出物、学習活動への参加の仕方や態度などで評価する。	中 間
10	第5章 Cによるプログラミング 1 Cの特徴 2 四則計算のプログラム	・簡単なプログラムによってCの特徴を理解する。 ・簡単な計算プログラムによってデータ型やデータの入出力方法などを理解する。		

11	3 選択処理 4 繰返し処理 5 配列 6 関数	・ if 文と switch 文について理解する。 ・ for 文と while 文について理解する。 ・ 配列の宣言や使用方法について理解する。 ・ 関数のつくり方、標準関数の使い方などについて理解する。		
12	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1 コンピュータの基本操作 2 ソフトウェアの基礎 3 アプリケーションソフト	・ コンピュータの正しい利用手続き、基本的な操作について理解する。 ・ データ保存や利用に必要な補助記憶装置の取扱いについて理解する。 ・ ソフトウェアの分類とOSの目的および基本操作について理解する。 ・ アプリケーションソフトウェアを実際に使えるようにする。	定期考査の成績，プリント等の提出物、学習活動への参加の仕方や態度などで評価する。	期末
2学期授業週数		15		

3 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)			評 価 方 法	考查 範囲
1	第9章 情報技術の活用 1 マルチメディア 2 プレゼンテーション	・マルチメディアの概要と情報のデジタル化などについて理解する。 ・収集した情報をもとに、効果的に考えを伝える方法を身に付ける。			定期考查の成績、プリント等の提出物、学習活動への参加の仕方や態度などで評価する。	学 年 末
2	3 文書の電子化 4 問題の発見・解決	・まとめた情報を文書として保管、活用する方法について理解する。 ・問題を見だし、それを解決していく手順と方法を理解する。				
3	第10章 数理処理 1 単位と数理処理 2 実験と数理処理 3 モデル化とシミュレーション	・量の名称・量記号・単位(SI)について、理解する。 ・実験データをグラフによって可視化し、データの特徴を見いだす方法を身に付ける。 ・いろいろな事象がモデル化によって数式として扱えることを理解する。				
3学期授業週数		8	年間授業週数	35		

◎評価の観点及び内容

知識・技術	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技術を身に付ける。
思考・判断・表現	諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に付けており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	ものづくり学 工業技術基礎	教科書	工業技術基礎 建築実習1・2	学年組	14H	単位数	1 2
年間目標	1 工業に関する基礎的な技術を実験や実習によって体験する。 2 1の体験に基づき各分野における工業技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解するとともに、広い視野と倫理観を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を身に付ける。								

1学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
4	ものづくり学 ・BIM 演習 ・住宅模型の製作	・BIMの基本的な操作方法について学ぶ。 BIMのアプリケーションソフトの1つであるArchicadを用いて、木造2階建て住宅の平面図やパースを作成する。 各階平面図を柱、壁、開口部などのツールを使用し、3Dモデルと連動させながら作成していく。 作成した図面を用いて外観パースや内観パースを作成する。 CADシステムの概要や特色を理解するとともに、その操作方法を身に付ける。	実習レポートの内容、実習への参加の仕方や態度、提出された課題への取り組みの深さなどを総合的に評価する。	
5				
6				
7		・平屋建て住宅模型の製作 模型製作における道具の安全な使用方法の習得及び美しい切り口、正確な接合を理解する。 製作の基となる「図面」を読む力を身に付ける。 上の項目について2班編成でローテーションを行う。		
1学期授業週数		1 2		

2学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	工業技術基礎 ・施工実習	継手の製作 日本古来の建築材料「木材」の性質を学ぶ。 木材加工における道具の安全な使用方法の習得及び製作の基となる「図面」を読む力を身に付ける。	実習レポートの内容、実習への参加の仕方や態度、提出された課題への取り組みの深さなどを総合的に評価する。	
10	・構造実習	平屋建て木造住宅の軸組模型の製作 模型製作における道具の安全な使用方法の習得及び軸組の構造を理解する。 製作の基となる「図面」を読む力を身に付ける。		

11	・材料実習	セメント・木材の強度試験 建材として多く使用されているセメント、木材の強度試験等を行い、その性質について学ぶ。	実習レポートの内容、実習への参加の仕方や態度、提出された課題への取り組みの深さなどを総合的に評価する。
12	・情報処理実習	汎用 CAD ソフトを用いた図面の製作 JW-CAD を用いて図面を作図する方法を習得する。	
		上の項目について 4 班編成でローテーションを行う。	
2 学期授業週数		1 5	

3学期					
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）		評 価 方 法	考查 範囲
1		上の項目について4班編成でローテーションを行う。		実習レポートの内容、実習への参加の仕方や態度、提出された課題への取り組みの深さなどを総合的に評価する。	
2					
3					
3学期授業週数		8	年間授業週数	35	

◎評価の観点及び内容

知識・技術	工業に関する基礎的な知識と技術を身に付け、工業の発展と環境・資源などの調和の取れたものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して、広い視野から自ら思考し、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現して伝える能力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	工業技術について主体的に興味・関心をもち、その改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身に付けている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	工業情報数理	教科書	工業情報数理	学年組	14H	単位数	2
年間目標	1 社会における情報化の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解する。 2 情報技術に関する知識と技術を習得する。 3 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	第1章産業社会と情報技術 1. コンピュータの構成と特徴 2. 情報化の進展と産業社会	・コンピュータの基本構成や特徴について理解する。 ・コンピュータが身のまわりのさまざまなものに組み込まれ、また、工場や販売流通、オフィスなどにおいて、コンピュータによる自動化が作業を効率的に進めていることについて理解する。 ・知的財産権、プライバシーの保護、ネチケットなど自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解する。 ・コンピュータウイルス対策や情報の不正利用防止のための基本的な技術について理解する。	授業への取り組みの深さ、提出物等及び 考查の結果を総合的に判断する。	中 間
5	3. 情報化社会の権利とモラル 4. 情報のセキュリティ管理			
6	第7章コンピュータネットワーク 1. コンピュータネットワークの概要 2. コンピュータネットワークの通信技術			
7	第6章ハードウェア 1. データの表し方 2. 論理回路の基礎 3. 処理装置の構成と動作	・コンピュータネットワークを利用したデータ通信の利点について理解する。 ・2進数、16進数の四則計算や変換・計算について理解する。 ・演算や制御を行う論理回路の基本について理解する。 ・コンピュータ周辺装置について理解し、適切に接続する技術を習得する。	授業への取り組みの深さ、提出物等及び 考查の結果を総合的に判断する。	期 末
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	第3章プログラミングの基礎	・プログラム言語の役割と言語の種類、特性についてそれぞれ理解する。 ・問題解決の手段としてのアルゴリズムやプログラムの作成の意味を理解する。 ・順次・選択・繰返しの三つの基本的な流れ図と構造化プログラミングの意義について理解し、これらを活用する技術を身に付ける。	授業への取り組みの深さ、提出物等及び 考查の結果を総合的に判断する。	中 間
10	1. プログラム言語 2. プログラムのつくり方 3. 流れ図とアルゴリズム			
	第10章数理処理 3-1. 工業に関する事象の数理処理			

11	第5章Cによるプログラミング 1. Cの特徴 2. 四則計算のプログラム 3. 選択処理 4. 繰返し処理 5. 配列 6. 関数	・算術計算のプログラムにおけるプログラムの書式やデータ型、演算子などについて理解する。 ・選択、繰返し処理について理解し、実際にプログラムが作成できるようになる。 ・配列による効果的なプログラム作成について理解する。 ・標準関数や引数や戻り値、変数の記憶域等について理解する。	授業への取り組みの深さ、提出物等及び 考查の結果を総合的に判断する。	期 末
12	7. Cによる数理処理 第2章コンピュータの基本操作とソフトウェア 1. コンピュータの基本操作 2. ソフトウェアの基礎 3. アプリケーションソフトウェア	・コンピュータの基本的な操作について理解する。 ・ソフトウェアの分類とオペレーティングシステムの目的及び基本操作について理解する。 ・適切なアプリケーションソフトを選択して使いこなす技術を習得する。		
2学期授業週数		15		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決	・マルチメディアの概要と情報のデジタル化などについて理解する。 ・適切な情報収集方法と情報の選択方法を知り、実際に情報収集して活用できる力を身に付ける。 ・収集した情報をもとに、他人に分かりやすく効果的に考えを伝える方法を身に付ける。 ・まとめた情報を文書として保管、活用する方法について理解する。 ・問題を見いだし、それを解決していく手順と方法を理解する。	授業への取り組みの深さ、提出物等及び 考查の結果を総合的に判断する。	学 年 末
2	1. マルチメディア 2. プレゼンテーション			
3	3. 文章の電子化 4. 問題の発見・解決			
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技術	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技術を身に付けている。
思考・判断・表現	諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に付けており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	ものづくり学 工業技術基礎	教科書	工業技術基礎	学年組	1 1・1 3・1 7 H 1 5 H	単位数	1 2
年間目標	1 工業全般にわたる実習に集中して取り組み、ものづくりに関する基礎的な技術を身に付ける。 2 工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、各分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとともに、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
4	【建設系】 ①水準測量 ②橋梁模型の製作 ③水質検査	・レベルの取扱いが十分にできる。 ・スタッフを正確に読むことができ、高低差の計算ができる。 ・地盤高の計算ができる。 ・橋梁の種類や特徴を理解する。 ・図面を見て角材を寸法通りに加工できる。 ・部材を組合せ、橋梁の模型を製作できる。 ・水質検査の原理と方法を理解する。 ・検査結果から環境の評価ができる。	実習への参加の 仕方や態度、実 習レポートの内 容、課題への取 組みの深さ等を 総合的に判断す る。	
5				
6				
7				
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
9	(1) 材料力学 コンクリートの配合設計を行い曲 げ・圧縮強度試験を行う。	・ レベルの取扱いが十分にできる。 ・ スタッフを正確に読むことができ、高低差の計算ができる。 ・ 地盤高の計算ができる。	実習への参加の仕 方や態度、実習レ ポートの内容、課 題への取組みの深 さ等を総合的に判 断する。	
10				
11	(2) 橋梁模型の製作 トラス橋の模型をつくる。	・ 橋梁の種類や特徴を理解する。 ・ 図面を見て角材を寸法通りに加工できる。 ・ 部材を組合せ、橋梁の模型を製作できる。 ・ 水質検査の原理と方法を理解する。 ・ 検査結果から環境の評価ができる。		
12				
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
1	(3)情報処理 パソコンアプリケーションの基本的操作を学ぶ。	・「word,excel,powerpoint」の基本的な機能を理解する。 ・文書や表の作成、プレゼンテーション画面の作成ができる。	実習への参加の仕方や態度、実習レポートの内容、課題への取り組みの深さ等を総合的に判断する。	
2	(4)基礎化学			
3	班別実習（4班編成） （1）材料力学 （2）橋梁模型の製作 （3）情報処理 （4）基礎化学 1 班 10 名でローテーション	・食塩水を用いて質量パーセント濃度と密度の計算方法、両者の関係について理解する。 ・酸と塩基の性質、化学反応について理解する。	1 年間の取り組みを3つの観点から評価し、成績とする。	
6				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技術	工業に関することについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえて課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	工業情報数理	教科書	工業情報数理	学年組	15H	単位数	2
年間目標	1. データの表し方、論理回路、処理装置等について学習しコンピュータにおける情報の取扱い方について理解を深める。 2. 流れ図、Full BASIC言語によるプログラミングについて学習し、プログラムの処理手順、表現方法についての理解を深める。 3. コンピュータの基本的な操作や活用の歴史、現代の利用等についての理解を深める。								

1学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
4	1章 産業社会と情報技術	・コンピュータで扱う情報とその利用例などについて知る。	中間考查の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	中間
5	7章 コンピュータネットワーク 1 コンピュータネットワークの概要 2 コンピュータネットワークの通信技術	・データ通信システムと情報通信ネットワークの概要について理解する。 ・コンピュータネットワークで使用するプロトコルについて理解する		
	6章 ハードウェア 1 データの表し方 2 論理回路の基礎	・2進数、10進数、16進数の相互変換や2進数の四則演算補数計算を習得し、データ表現について理解する。 ・基本論理回路の働きや特性について理解する。 ・コンピュータ内部の計算に関する回路を学び、論理回路の応用力を習得する。		
6			期末考查の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	期末
7				末
1学期授業週数		12		

2学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
9	2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 2 ソフトウェアの基礎 3 アプリケーションソフトウェア	・収集した情報を基に、他人にわかりやすく効果的に考えを伝える方法を身に付ける。 ・問題を見だし、それを解決していく手順と方法を理解する。	中間考查の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	中間
10				

11	3章 プログラムの基礎 1 プログラム言語 2 プログラムのつくり方	・プログラム言語の役割と特性についてそれぞれ理解する。 ・コンピュータを利用し遂行する業務の目標や問題を明確に認識し、効率よく処理する力を養う。	期末 考查の成績、 提出物の内容、学 習活動への取組 み、態度によって 総合評価する。	期 末
	4章 BASIC によるプログラミング 1 BASIC の特徴 2 四則計算のプログラム 3 文字データの取り扱い 4 データの読み取り 5 選択処理 6 繰り返し処理 7 配列処理 8 外部関数 9 グラフィックス	・算術計算のプログラムにおけるプログラムの書式やデータ型、演算子などについて理解する。 ・選択、繰り返し処理について説明し、実際にプログラムが作成できるようになる。 ・配列による効果的なプログラム作成について理解する。 ・標準関数や引数や戻り値、変数の記憶域等について理解する。		
2 学期授業週数		15		

3学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい (内容)	評価方法	考查範囲
1	9章 情報技術の活用 2 プレゼンテーション 4 問題の発見・解決	・オペレーティングシステムやワープロ等のアプリケーションソフトウェアの基本的な利用方法などについて理解する。	学年末考查の成績、提出物の内容、学習活動への取り組み、態度によって総合評価する。	学年末
2				
3	10章 数値処理 3 モデル化とシミュレーション	・いろいろな事象が、モデル化によって数式として扱えることを理解する。		
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技術	情報に関する基礎的な知識と技術をもち、社会における情報化の進展と情報の意義や役割、情報化社会に生きる技術者としての使命を理解し、利活用できる。
思考・判断・表現	情報社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	情報に関する諸事象について関心をもち、社会の改善・向上を目指して、自ら学び、工業の発展に主体的・協働的な態度及び創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	ものづくり学 工業技術基礎	教科書	工業技術基礎 自主教材	学年組	1 2H、1 4H 1 6H	単位数	1 2
年間目標	工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験し、伝統的な工芸分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解するとともに、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	①自然物のスケッチコース ②人工物のデッサン	○輪切りにした丸太を紙に鉛筆を使って表現する。(自然物) ○石膏円錐の鉛筆デッサンを行う。(人工物) ・構図について考えて描けるようにする。 ・物体を面で捉え、立体感を出せるようにする。 ・形の輪郭線・稜線・構造の中心線などを的確に把握し、それらを基に物の見方や形を捉えられる能力を身に付ける。 ・発表では、自分の作品の良い点、改善点、今後、デッサンがどのように役立つかなどについて自分の考えを述べる。 ・他者の作品を見て、良い点を共有する。	課題制作への取組状況や態度、意欲、デザイン力、発言、作品の完成度、各作業での技能、プリントでの知識や理解などで評価する。	
5				
6	③銅茶匙の制作	○形態を変化させる加工、質を変化させる加工について学ぶ。 ・板取り、切削加工、鍛金打ち出し加工、焼きなまし・酸洗い(希硫酸)、着色(硫化カリ液・磨き粉)。		
7	④木彫	○彫刻刀で木彫刻を行う。 ・『切り出し小刀』や『丸刀』などの彫刻刀の使用法を理解し、安全に扱う。 ・『切り出し小刀』で模様彫りの線彫り(片切り彫り)をする。『丸刀』で、模様以外の地部分の石目彫りをする。 ・研磨紙で、木材の表面を平滑な面に研磨をする。 ・着色剤を含んだ水性ニスでムラや垂れのない均一な塗装をする。		
		上記の項目について、4班編制でローテーションを行う。		
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	①レタリング	・漢字やカナ、アルファベットなどについて、明朝体やゴシック体などの特徴を理解し、基本的な文字を描く。 ・「永字八法」の学習を通して、基本画線を描く。 ・水分の吸収、蒸発による紙の膨張、収縮性を利用した仮張り（水張り）をする。 ・「溝引き棒と直定規」を使った直線引きをする。 ・ムラ、無駄のない着色をする。 ・文字を使った創造力豊かな画面構成を学ぶ。	課題制作への取組状況や態度、意欲、デザイン力、発言、作品の完成度、各作業での技能、プリントでの知識や理解などで評価する。	
10				

11	②銅板による写真立ての製作	1 金属について	・延性、展性、接合(溶接)等の特性を理解する。	課題制作への取組状況や態度、意欲、デザイン力、発言、作品の完成度、各作業での技能、プリントでの知識や理解などで評価する。
		2 模型制作	・写真立てを図案化する。	
12		3 板取	・厚紙で模型を制作し、図案から立体へと転換作成する。	
		4 研削	・厚紙を利用し、銅板に転写する。	
		5 接合	・金切りはさみ、シャーリングを安全に利用し切断する。	
		6 着色・仕上げ	・万力、組ヤスリを利用し寸法に沿った切削をする。	
			・りん銅鑑を利用した接合をする。	
			・硫化カリウムによる黒色着色をする。	
	③木の箸制作		○道具の目的と機能性について学び、削除法による造形法を行う。	
			・使用目的や場面設定、アイディアスケッチ、木材の木取り、切削加工、研磨、塗装	
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1		上記の項目について、3 班編制でローテーションを行う。	課題制作への取組状況や態度、意欲、デザイン力、発言、作品の完成度、各作業での技能、プリントでの知識や理解などで評価する。	
2				
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技術	工業に関する基礎的な知識と技術を身に付け、工業の発展と環境・資源などの調和の取れたものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して、広い視野から自ら思考し、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現し伝える能力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	工業技術について主体的に興味・関心をもち、その改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身に付けている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	工業情報数理	教科書	工業情報数理	学年組	16H	単位数	2
年間	1. 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解する。								
	2. 情報技術に関する知識と技術を習得する。								
目標	3. 工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
4	第1章 産業社会と情報技術 1. コンピュータの構成と特徴 2. 情報化の進展と産業社会 3. 情報化社会の権利とモラル 4. 情報のセキュリティ管理 第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア	・コンピュータの基本構成について理解する。 ・コンピュータが身のまわりのさまざまなものに組み込まれ、さらにインターネットなどに接続され利用されていることについて理解する。 ・知的財産権、プライバシーの保護、ネットなど自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解する。	考査評価、提出物評価、学習の取込み状況評価などで評価する	中 間
5	1. コンピュータの基本操作 2. ソフトウェアの基礎 3. アプリケーションソフトウェア	・コンピュータウイルス対策や情報の不正利用防止のための技術を理解する。 ・コンピュータの正しい利用手続き、キーボードやマウスの操作について理解する。 ・ソフトウェアの分類とオペレーティングシステムの目的および操作について理解する。 ・アプリケーションソフトウェアを理解し、実際に使えるようにする。		
6	第3章 プログラミングの基礎 1. プログラム言語 2. プログラムのつくり方 3. 流れ図とアルゴリズム	・プログラム言語の種類について理解する。 ・問題解決の手段としてのアルゴリズムやプログラムの作成の意味を理解する。 ・順次・選択・繰返しの三つの基本的な流れ図と構造化プログラミングの意義について理解する。	考査評価、提出物評価、学習の取込み状況評価などで評価する	期 末
7	第4章 BASIC によるプログラミング 1. BASIC の特徴 2. 四則計算のプログラム 3. 文字データの取り扱い 4. データの読取り	・BASIC の特徴、簡単なプログラム作成について理解する。 ・データの出力、データの入力、関数の計算について理解する。 ・文字データの扱いについて理解する。 ・プログラム中にデータを設定する方法を理解する。		
1 学期授業週数		12		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
9	第4章 BASIC によるプログラミング 5. 選択処理 6. 繰り返し処理 7. 配列処理 8. 外部関数 9. グラフィックス	- 条件による選択処理について理解する。 - 繰り返し処理とその書式について理解する。 - 配列の利用と書式について理解する。 - メインプログラムと外部関数の関係について理解する。 - コンピュータグラフィックスの基本的事項について理解する。	9 10	9 10

	第6章 ハードウェア	・コンピュータで用いるデータの表し方について理解する。 ・2値で演算や制御を行う論理回路の基本について理解する。 ・コンピュータの構成、処理装置の動作について理解する。 ・入出力装置と補助記憶装置について理解する。	考査評価、提出物評価、学習の取込み状況評価などで評価する	期 末
11	1. データの表し方 2. 論理回路の基礎 3. 処理装置の構成と動作			
12				
2学期授業週数		15		

3学期						
月	学 習 項 目 (単 元 名)		学習のねらい (内容)		評 価 方 法	考查 範囲
1	第7章 コンピュータネットワーク 1. コンピュータネットワークの概要 2. コンピュータネットワークの通信技術 第8章 コンピュータ制御 1. コンピュータ制御の概要 2. 制御プログラミング 3. 組込み技術と問題の発見・解決		・コンピュータネットワークを利用したデータ通信の利点について理解する。 ・ネットワーク機器とネットワークの形態について理解する。 ・コンピュータ制御の考え方について理解する。 ・コンピュータ制御の具体的な方法について理解する。 ・身のまわりの組込み技術の概要を知り、特徴を理解する。		考查評価、提出物評価、学習の取込み状況評価などで評価する	学 年 末
2	第9章 情報技術の活用 1. マルチメディア 2. プレゼンテーション 3. 文書の電子化 4. 問題の発見・解決		・マルチメディアの概要と情報のデジタル化などについて理解する。 ・収集した情報を基に、他人にわかりやすく考えを伝える方法を身に付ける。 ・まとめた情報を文書として保管、活用する方法について理解する。 ・問題を見いだし、それを解決していく手順と方法を理解する。			
3	第10章 数値処理 1. 単位と数値処理 2. 実験と数値処理 3. モデル化とシミュレーション		・量の名称・量記号・単位(SI)について理解する。 ・実験データをグラフによって可視化し、データの特徴を見い出す方法を身に付ける。 ・いろいろな事象が、モデル化によって数式として扱えることを理解する。			
3学期授業週数		8	年間授業週数	35		

◎評価の観点及び内容

知識・技術	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技術を身に付けている。
思考・判断・表現	諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に付けており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	ものづくり学 工業技術基礎	教科書	工業技術基礎 自作プリント	学年組	1 7H	単位数	1 2
年間目標	・工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験し、各分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解するとともに、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育む。 ・デザインに関する基本的な知識や技法を、作品制作を通して実践的に学び、表現の幅を広げる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	ものづくり学 ・鉛筆デッサンコース ・ロゴマークコース ・立体構成コース	観ることの大切さを理解し、五合枧をモチーフに基礎的な立体感・質感・ボリュームを意識しながら、鉛筆を使って表現する。	ワークシート の内容、授業への参加の仕方 や態度、提出された課題への 取り組みの深さなどを総合的に 評価する。	
5		イメージを視覚的に伝える意味をデザイン事例から理解し、実際に「ジブン ブランド」を仮定したロゴマークのデザインを考え作成する。		
6		道具や接着剤の使い方を理解し、見る位置によって見え方が変わることに関心をもちながら、自分の名前をモチーフにした立体物を作成する。		
7		上記の項目について3 班編成でローテーションを行う。		
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	工業技術基礎 1. エアブラシ	以下の1～4の項目について4 班編成でローテーションを行う。 ハンドピースを使用した「ぼかし」の表現実践。下描きした立方体と球に、着色、補色を混色した色で陰影をつけて写実的な立体感を表現する。	ワークシートやアイデアスケッチの内容、授業への参加の仕方や態度、提出された課題への取り組みの深さなどを総合的に評価する。	
10	2. 表現技法	2 人組となり、相手から集めた情報を基に1 枚の肖像画を制作する。事前にマーブリング、ドリップング、フロッタージュ、スクラッチなど多くの技法があることを体験しながら学び、イメージを的確に表現するための技法を選び、取り入れる。		

11	3. 立体構成	スチレンボードを裁断・接着しながら、空間把握、立体構成の基礎を学習する。「文字をつくる」では見る位置によって見え方が変わること、「抽象表現による立体構成」では形の存在しないものを形によって表現することに関心をもちながら、制作する。	ワークシートやアイデアスケッチの内容、授業への参加の仕方や態度、提出された課題への取り組みの深さなどを総合的に評価する。	
12				
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	4. レタリング	レタリングの意義について理解し、「和文」、「欧文」等の特徴や描き方を学びながら、平面上でのバランス感覚などを身に付ける。	ワークシートやアイデアスケッチの内容、授業への参加の仕方や態度、提出された課題への取り組みの深さなどを総合的に評価する。	
2				
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技術	工業に関する基礎的な知識と技術を身に付け、工業の発展と環境・資源などの調和の取れたものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して、広い視野から自ら思考し、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現して伝える能力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	工業技術について主体的に興味・関心をもち、その改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身に付けている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	工業	科目名	工業情報数理	教科書	工業情報数理	学年組	17H	単位数	2
年間目標	1. 社会における情報化の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解する。 2. 情報技術に関する知識と技術を習得する。 3. 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	第1章産業社会と情報技術 1. コンピュータの構成と特徴 2. 情報化の進展と産業社会	・コンピュータの基本構成や特徴について理解する。 ・コンピュータが身のまわりのさまざまなものに組み込まれ、また、工場や販売流通、オフィスなどにおいて、コンピュータによる自動化が作業を効率的に進めていることについて理解する。	授業への取り組みの深さ、提出物等及び考查の結果を総合的に判断する。	中 間
5	3. 情報化社会の権利とモラル 4. 情報のセキュリティ管理	・知的財産権、プライバシーの保護、ネチケットなど自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解する。 ・コンピュータウイルス対策や情報の不正利用防止のための基本的な技術について理解する。		
6	第7章コンピュータネットワーク 1. コンピュータネットワークの概要 2. コンピュータネットワークの通信技術	・コンピュータネットワークを利用したデータ通信の利点について理解する。	授業への取り組みの深さ、提出物等及び考查の結果を総合的に判断する。	期 末
7	第6章ハードウェア 1. データの表し方 2. 論理回路の基礎 3. 処理装置の構成と動作	・2進数、16進数の四則計算や変換・計算について理解する。 ・演算や制御を行う論理回路の基本について理解する。 ・コンピュータ周辺装置について理解し、適切に接続する技術を習得する。		
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	第3章プログラミングの基礎 1. プログラム言語 2. プログラムのつくり方 3. 流れ図とアルゴリズム	・プログラム言語の役割と言語の種類、特性についてそれぞれ理解する。 ・問題解決の手段としてのアルゴリズムやプログラムの作成の意味を理解する。 ・順次・選択・繰返しの三つの基本的な流れ図と構造化プログラミングの意義について理解し、これらを活用する技術を身に付ける。	授業への取り組みの深さ、提出物等及び考查の結果を総合的に判断する。	中 間
10	第10章数理処理 3-1. 工業に関する事象の数理処理	・いろいろな事象が、モデル化によって数式として扱えることを理解する。		

11	第5章Cによるプログラミング 1. Cの特徴 2. 四則計算のプログラム 3. 選択処理 4. 繰返し処理 5. 配列 6. 関数	・算術計算のプログラムにおけるプログラムの書式やデータ型、演算子などについて理解する。 ・選択、繰り返し処理について理解し、実際にプログラムが作成できるようになる。 ・配列による効果的なプログラム作成について理解する。	授業への取り組みの深さ、提出物等及び考查の結果を総合的に判断する。	期 末
12	7. Cによる数理処理 第2章コンピュータの基本操作とソフトウェア 1. コンピュータの基本操作 2. ソフトウェアの基礎 3. アプリケーションソフトウェア	・標準関数や引数や戻り値、変数の記憶域等について理解する。 ・コンピュータの基本的な操作について理解する。 ・ソフトウェアの分類とオペレーティングシステムの目的および基本操作について理解する。 ・適切なアプリケーションソフトを選択して使いこなす技術を習得する。		
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	第9章 情報技術の活用と問題の発見・解決 1. マルチメディア	・マルチメディアの概要と情報のデジタル化などについて理解する。	授業への取り組みの深さ、提出物等及び考查の結果を総合的に判断する。	学 年 末
2	2. プレゼンテーション	・適切な情報収集方法と情報の選択方法を知り、実際に情報収集して活用できる力を身に付ける。		
3	3. 文章の電子化 4. 問題の発見・解決	・収集した情報を基に、他人に分かりやすく効果的に考えを伝える方法を身に付ける。 ・まとめた情報を文書として保管、活用する方法について理解する。 ・問題を見いだし、それを解決していく手順と方法を理解する。		
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技術	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技術を身に付けている。
思考・判断・表現	諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に付けており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けている。